

べてる

埼玉心理リハビリテーション研究会会報
第2号 平成20年6月7日(土)発行

「べてる(Bethel)」は旧約聖書・創世記に出てくる地名で、「神の家」という意味。

ドイツに古くから障害を持った人々が受け入れられ、暮らしている同名の街(ドイツ名: ベーテル)があり、第二次世界大戦中、ナチスが「優れた人間のみが生きる権利がある」との思想から、障害者を抹殺しようとした時、住民が「彼ら・彼女らを連れて行くのならば、私たちも連れて行け」と、命懸けで抵抗した。(Wikipedia より)

第4回 トレーナー研修会報告

埼玉心理リハビリテーション研究会は、夏にミニキャンプ、冬にトレーナー研修会を行っています。トレーナー研修会は、埼玉県や近県の経験のあるトレーナーが参加し、テーマを絞って研修します。保護者からは「経験のあるトレーナーなので安心して子どもを任せられる」「わからないことがどんどん聞ける」という評価をいただいています。また経験豊かなトレーナーなので、トレーニーにわかりやすく課題を伝える工夫や、単に「訓練」するのではなく、身体を使う楽しさを伝えたり、日常生活に生かせる身体の使い方を伝える視点も持っています。トレーナーにとっては、経験のある者が集まり、同じテーマでミーティングや研修を行うので、内容が深まり、自分の実力を確認したり目標を持つことができます。参加者からは好評で、そして全国的にもユニークな取り組みをしている研修会です。

今回は、「年少児に対する動作法 — 早期介入と保護者への説明 —」をテーマに、静岡大学の香野毅先生を総合指導にお招きして実施しました。

特別支援教育が始まり、特別な教育的ニーズのある子どもの早期発見、早期支援が重要な課題になっています。今回のトレーニーは早期発見という意味ではクリアしていますが、早期支援を実際に行う際に、いろいろな難しさを抱えています。

トレーニーに関して考えてみると、年少児ということもあり、動作法に対するモチベーションがほとんど持っていません。(「ボクは〇〇ができるようになりたいから、動作法を頑張るんだ!」なんて、誰も思っていない。)保護者と離れて、動作法はもちろん、他者と過ごす経験が少ないお子さんもいます。体力もまだまだで、午後になれば疲れて眠くなってしまいます。注意もまだまだ散漫です。言葉での指示理解が難しいこともあります。泣いて気持ちを訴えることも少なくありません。

トレーナーに関して考えてみると、対象者が小さいので「何とかなるんじゃないか?(言うことを聞かせることができちゃうのではないか?)」や「こうすることがあなたのためだから、言うことを聞いて」と思い、トレーナーの思いが強すぎたり、トレーナー主導で進めてしまうこともありがちです。

保護者に関して考えてみると、我が子の実態がなかなか掴みきれず、体調も安定せず、子育てに不安を抱えている方も少なからずいます。就学の問題も、心配です。何かをしなくてはならないとはわかっていても、やるべきことが多すぎて何から手を付けていいのか困っていたり、わからないことに対して明確な答えを得られず苦しんでいる保護者もいると思います。

今回の研修では、動作法を通して、トレーニーの課題を明確にし、実際にかかわりながら、

そういった問題に切り込んでいく研修をテーマにしました。

動作法の時間は、予想以上にスムーズに進めたのではないかと思います。やや強引さが見られるトレーナーも、かわりをすぐに修正することができていました。最初の頃はトレーニーの身体の小ささにやりにくさを感じているトレーナーもいましたが、すぐにポイントをついたかわりができていたように見えました。

今後の課題となったのは、保護者への説明という部分です。多くのトレーナーが苦勞をしていました。本来ならば、トレーニーの実態把握をし、目標や内容を設定した段階で、一通りの説明ができなくては困るのですが、保護者から改めて「今やっていることは、何のためになるのか？」と問われると、考え込んでしまう人もいたようです。「家で何をどうやったらいいですか？」の質問に対しても、トレーニーの課題と、家庭の状況を適切に判断して伝えるのは難しかったようです。そのため将来の見通しに関する質問（成長するに連れ、どんなことに気を付ければよいか？どんな学習が必要になってくるか？など）や就学に関する情報に関しては、かなり苦勞をしているように思われました。

私たちは職場や月例会やその他の場面で、いろいろなトレーニーに接してきています。いろいろな障害をお持ちの方に触れることもあるでしょうし、同じ名前の障害でも乳幼児・学齡期・青年期などのライフステージで会うこともあります。経験が豊かならばそれに越したことはないのですが、ひとつひとつの出会いを大切に、その出会いから学べることはとことん学び尽くす貪欲さも必要なのかもしれないと思いました。保護者から話しを伺う時も「〇年前の様子はどうだったのか？」なども聞いて、一人のトレーニーの育ちをじっくり知ることも大切だと思います。

香野先生からは、トレーニーのかわり方や、保護者指導の方法などをご指導いただきました。また技法の指導では、今まであまり埼玉では研修できなかった立位と SART の具体的な方法を

学ぶことができました。香野先生の柔和なお人柄に甘んじて「私にもちょっとやってみてください」「これでいいのですか？」といった質問がたくさん出て、各自が自分の身体を通して体験できたのもとてもよい経験になったと思います。

今回、参加してくださった皆様に感謝すると共に、さらに力を付けて、みんなから憧れのトレーナー研修会と言われるような、そんな研修会に育てていきたいと考えています。



写真：第4回トレーナー研修会の参加者

文責 篠原弥生（マネージャー）



娘が学校で取り組んでいる動作法について、親の私も知りたい、学びたいと思ったのが、小学部の半ば頃でした。先生に相談をして出会ったのが心理リハの月例会です。

紹介されたテキストを読み、月例会に参加し、講師の先生から親向けの指導を受けて学んできて、面白い、でも難しい、と思うようになりました。初めは子どもに対する取り組みというところが主でしたが、次第に自分自身のからだをもみつめるようになりより良い状態で子どもとかかわれるように心がける、というオマケの収穫ができました。母がどっしりと中心のぶれない良い状態であることが子どものために大切、と思います。

これからも親子共に、健やかな状態で日々を過ごせたら、と願っています。

2008. 3. 13

横田珠美

小学部卒業式

2月末から卒業式の練習が始まりました。その頃から大翔の不安定な時が多くなり、自傷、多少からパニックになることが増えました。思春期ということもあるかもしれませんが、卒業式はちゃんと出来るのか？と、とても心配でした。

練習の回数を重ねると少しずつ落ち着いてきました。晴れの日にと思い買ったスーツを着ての練習の時は、みんなから「かっこいいー」と言われ嬉しそうだったとのことでした。

式当日、喜んでスーツに着替え、良い笑顔で家を出ました。練習とは違う本番、入場から退場まで1時間あまり、先生の手を借りて証書も受け取ることができて、本当に頑張ることが出来ました。ずっとドキドキしながら見ていましたが、とても嬉しかったです。



2008. 4

野口木綿子

……後で思い起こしてみれば、学校ではそんなことがありながらも、3月と4月の月例会では、いつも通りの訓練ができていたようです。今までの積み重ねで、見通しが持てるようになってきたようです。

* 右の絵は、妹がお兄ちゃんの卒業式の写真を見て描きました。

月例会トレーナー研修

平成19年度は、「**腰**」をテーマに1年間取り組んできました。

<腰のアセスメント>

トレーニーの腰ってどうなってんの？どう見ればいいの？……

そんな素朴な疑問からスタートしました。

まずは二人組になって、実際に相手の様子を見合いました。

あぐら座で、楽座で、膝立ちで、立位で……

正面から見てみる。後から、右から、左から……どこがどうなの？

実際に触ってみて確かめてみよう。

腰を動かしてもらおう。前に、後に、右に、左に。

二人組のペアになって、あらためてそんなことをよく観察してみると、実際にはわかっているようでわからないことがたくさんできました。また、人それぞれ、様々な動きの特徴もあることがわかってきました。腰の動きづくりを支援する前に、まずはその子その子の腰の動きをどう見るかも重要な課題であることに気づきました。研修の後半では、「あぐら座での腰の動きと膝立ちでの腰の動きはどうつながるのか。」「膝立ちで腰を起こす動きを引き出すにはどうするか。」といった話題提供もありました。

編集後記

こんにちは。第2号、お待たせしました！今回は、第6回トレーナー研修、そしてトレーニーの保護者からの一言を特集致しました。いかがでしたでしょうか。次号は、「あなた」からの一言をよろしく！

ところで、早いもので、当埼玉心理リハビリテーション研究会が発足して、もう6年がたちました。

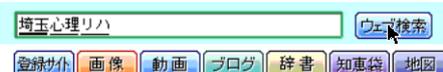
1年目は研修会、ミニキャンプ、続いてトレーナー研修会、月例会と、年々進化？してまいりました。毎年、全国적으로ご活躍なさっている講師の方々、そして平成18年度には、念願の成瀬悟策先生をお招きすることができました。研修内容も、年々充実してきているのではないかと自負しております。

そんな中、今年度は月例会に星野公夫先生、ミニキャンでは大神英裕先生をお招きできることになりました。いずれも、全国から引っ張りだこで、動作法を志す者にとってなかなか直々に教を請うことは難しい講師の方々です。この機会を逃すことなく、いろいろなことを学びたいと思います！

(しまたろう)

埼玉心理リハビリテーション研究会 ホームページ

<http://homepage2.nifty.com/saitama-sinri-riha/> もしくは



月例会の様子、BBSなどいろいろな情報があります。

全国の様子を知るページとのリンクもあります。